

### 3-9. 農林水産施設

#### I 農水施設、自治公民館

##### A. 施設概要

農林水産等産業の振興、生活改善の推進、住民の教養知識の向上、健康福祉の増進及び地域連帯感の高揚を図るため、農水施設2施設、自治公民館3施設の計5施設を設置しています。

農水施設には会議室や研究室、多目的ホール等が整備され、敷地面積はうるま市農民研修施設が3,059㎡、うるま市農家高齢者創作館が1,056㎡です。自治公民館は多目的ホール、ステージ、料理実習室、会議室、事務室が整備され、敷地面積は809㎡～1,906㎡です。

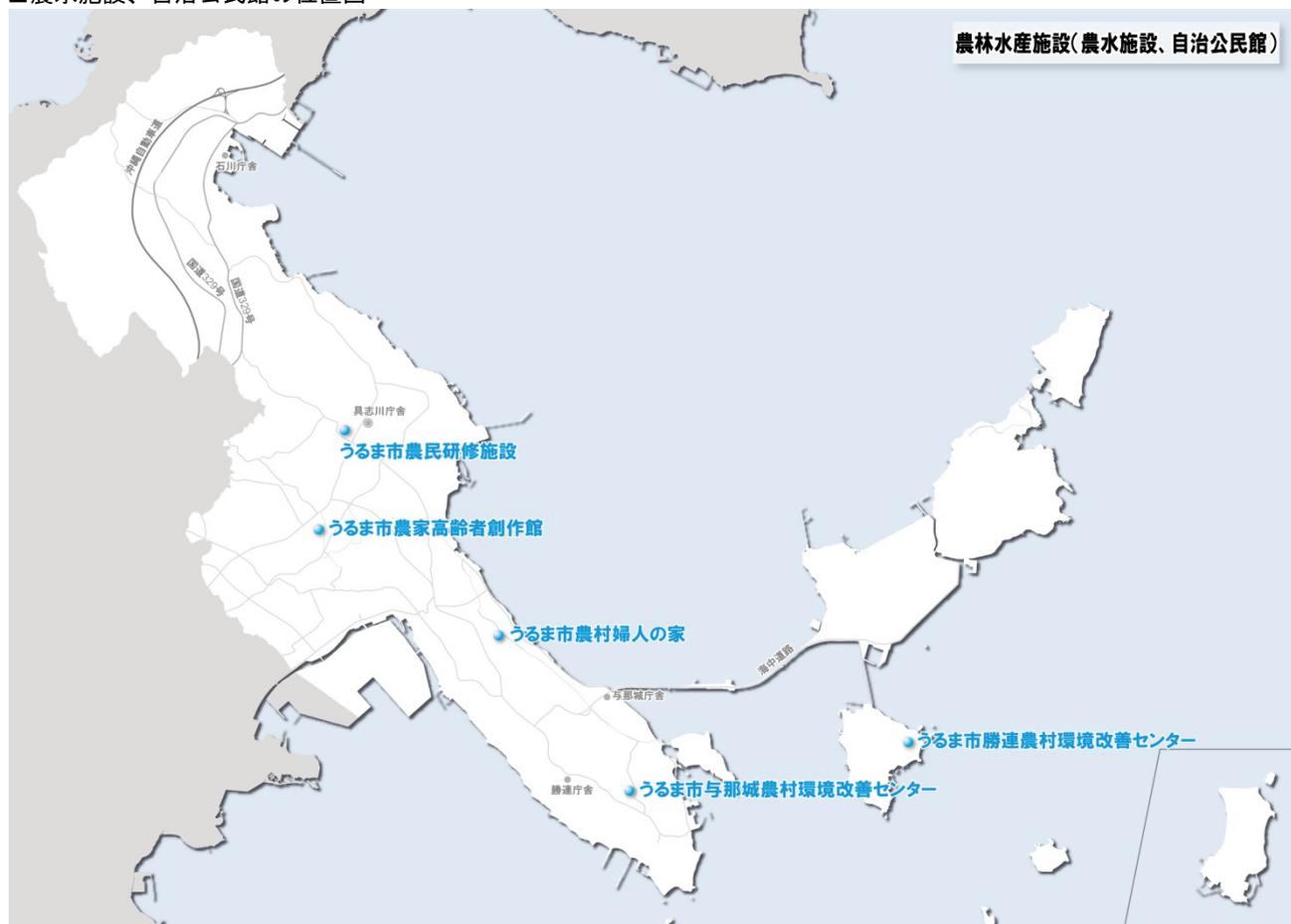
##### ■主な業務内容

農家高齢者創作館：農業者、市民の利用  
 農民研修施設：農業者、市民、JAおきなわの利用  
 農村環境改善センター、農村婦人の家：地域住民の利用

##### ■農水施設、自治公民館の一覧

No	施設名	施設構成	敷地面積
236	うるま市農家高齢者創作館	会議室・研究室・料理実習室	1,056㎡
237	うるま市農民研修施設	会議室・多目的ホール	3,059㎡
238	うるま市勝連農村環境改善センター	多目的ホール・ステージ・料理実習室・会議室・事務室	809㎡
239	うるま市与那城農村環境改善センター	多目的ホール・ステージ・料理実習室・会議室・事務室	1,906㎡
240	うるま市農村婦人の家	多目的ホール・ステージ・料理実習室・会議室・事務室	849㎡

##### ■農水施設、自治公民館の位置図



## B. 建築物の状況

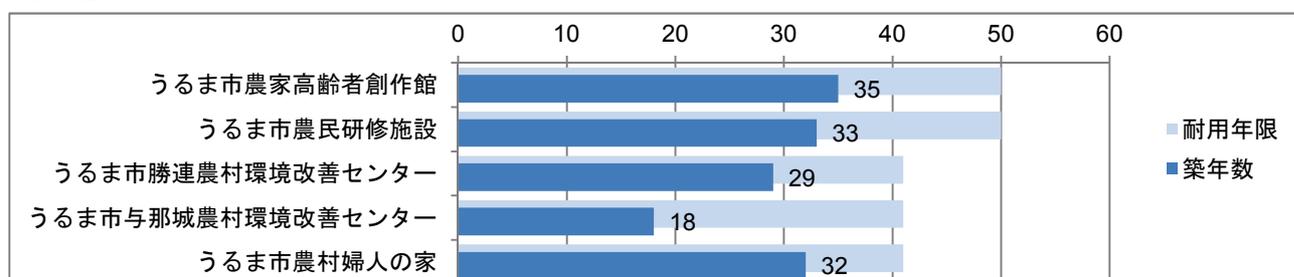
農水施設、自治公民館のうち建築年が最も古いのは、昭和53(1978)年に建築したうるま市農家高齢者創作館であり、築後35年が経過し建物の耐用年限50年まであと15年となっています。

農水施設2施設は鉄筋コンクリート造、自治公民館3施設は鉄筋コンクリートブロック造であり、堅牢かつ耐火性能に優れています。

### ■農水施設、自治公民館の建築年・規模・構造・建築面積・延床面積

施設名	建築年	建物規模	建物の構造	建築面積	延床面積
うるま市農家高齢者創作館	昭和53(1978)年	地上1階	鉄筋コンクリート造	211 m <sup>2</sup>	-
うるま市農民研修施設	昭和55(1980)年	地上3階	鉄筋コンクリート造	1,099 m <sup>2</sup>	-
うるま市勝連農村環境改善センター	昭和59(1984)年	地上1階	鉄筋コンクリートブロック造	402 m <sup>2</sup>	-
うるま市与那城農村環境改善センター	平成7(1995)年	地上2階	鉄筋コンクリートブロック造	1,007 m <sup>2</sup>	-
うるま市農村婦人の家	昭和56(1981)年	地上1階	鉄筋コンクリートブロック造	396 m <sup>2</sup>	-

### ■農水施設、自治公民館の築年数(年)



\*耐用年限は、財務省令「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」を参考とし、いずれも細目に記載されている以外の建物（鉄筋コンクリート造50年、ブロック造41年）とみなしました。

農水施設、自治公民館のうち農水施設2施設とうるま市農村婦人の家は、昭和56(1981)年の建築基準法の改正前に建築された建築物であり、旧耐震基準で建てられていますが、耐震診断、耐震補強ともに未実施となっています。うるま市農村婦人の家を除く自治公民館2施設は、いずれも新耐震構造となっているため、特に耐震診断及び耐震補強の必要はありません。

バリアフリー化についてみると、いずれの施設も、市民が日常的に利用する施設であることから駐車場及びアプローチから出入口、廊下等に至る主要動線の対応が進んでいます。

農水施設、自治公民館の5施設では、これまで外壁、屋根、設備等の大規模な改修工事は行われていません。

### ■農水施設、自治公民館の耐震状況・バリアフリー状況

施設名	耐震診断の有無	耐震補強の有無	バリアフリー化(箇所)							視覚障害者誘導用ブロック
			出入口	廊下等	階段	エレベーター	トイレ	駐車場	アプローチ	
うるま市農家高齢者創作館	未実施	未実施	○	○	-	-	×	○	○	×
うるま市農民研修施設	未実施	未実施	○	○	○	×	×	○	○	×
うるま市勝連農村環境改善センター	-	-	○	○	-	-	×	○	○	×
うるま市与那城農村環境改善センター	-	-	○	○	○	×	×	○	○	×
うるま市農村婦人の家	未実施	未実施	○	○	-	-	×	○	○	×

### C. 管理運営の状況

農水施設 2 施設は直営により農政課が管理しており、一施設当たりの管理に関わる正規職員は 0.1 人です。

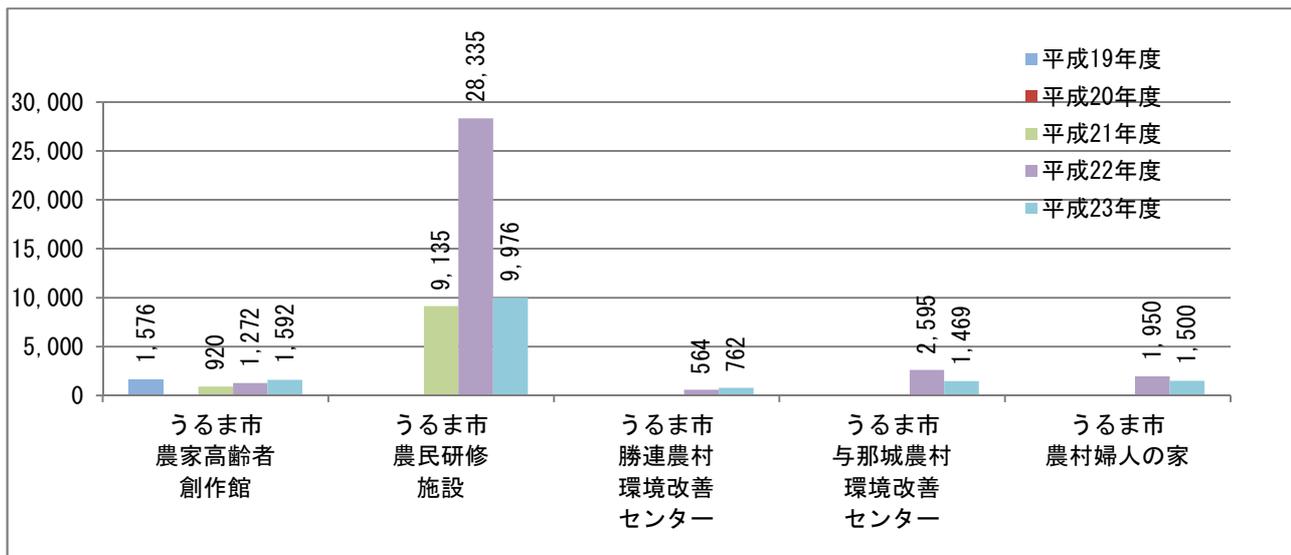
自治公民館は 3 施設とも、指定管理者による管理運営が行われています。

#### ■農水施設、自治公民館の管理形態等

施設名	担当部署	管理形態	正規職員数 (人)	利用時間	休所(館)日	開館 日数 (日)
うるま市農家高齢者創作館	農政課	直営	0.1	8:30~17:15	土・日・祝日	243
うるま市農民研修施設	農政課	直営	0.1	8:30~17:15	土・日・祝日	243
うるま市勝連農村環境 改善センター	農政課	指定管理者	0	8:30~17:15	土・日・祝日	243
うるま市与那城農村環境 改善センター	農政課	指定管理者	0	8:30~17:15	土・日・祝日	243
うるま市農村婦人の家	農政課	指定管理者	0	8:30~17:15	土・日・祝日	243

農水施設、自治公民館の 5 施設の利用者数は、平成 23 (2011) 年度で総数 15,299 人であり、開館日数が 243 日であるため、1 日当たりの利用者数は平均 63 人/日となります。

#### ■農水施設、自治公民館の年間利用者数の推移 (人)

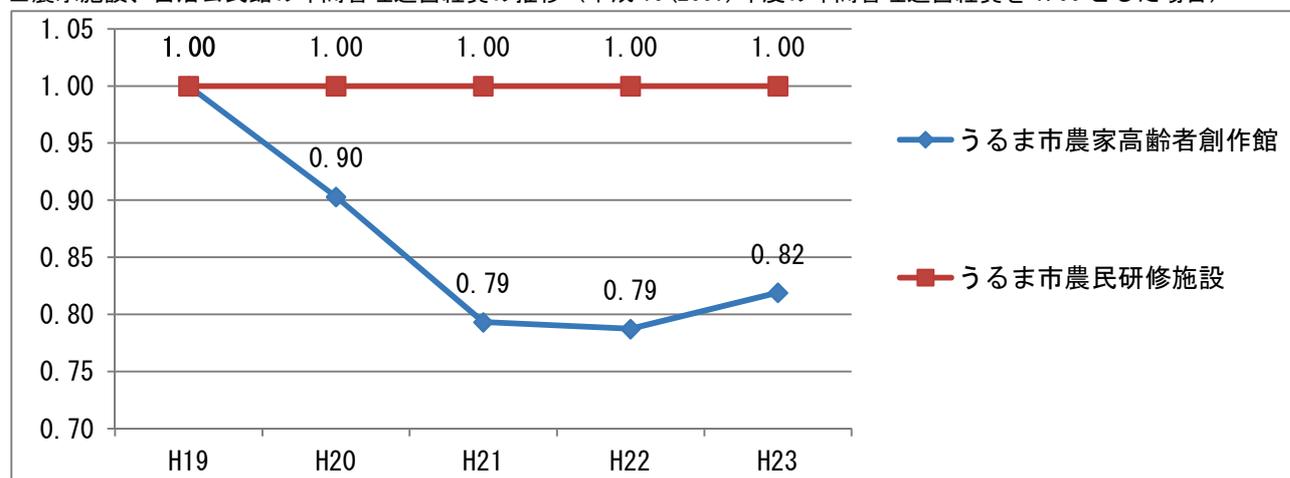


農水施設、自治公民館の年間管理運営経費をみると、うるま市農家高齢者創作館は平成19(2007)年度より減少しており、平成21(2009)年度以降は1,350千円前後で推移しています。うるま市農民研修施設は800千円で一定額となっており、うるま市与那城農村環境改善センターは、軽微な修繕が実施された平成23(2011)年度で68千円となっています。

■農水施設、自治公民館の年間管理運営経費の推移(千円)

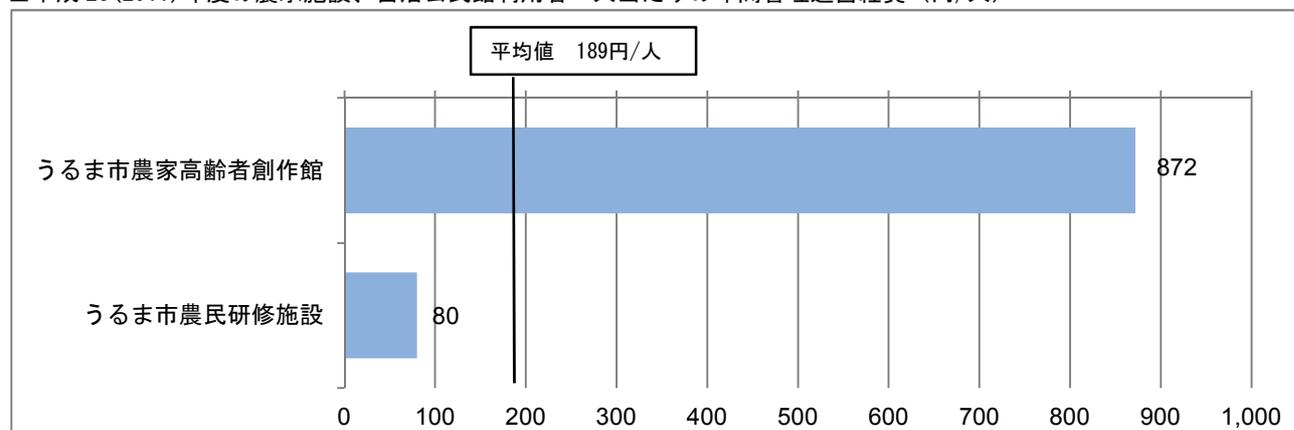
施設名	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
うるま市農家高齢者創作館	1,694	1,531	1,344	1,334	1,388
うるま市農民研修施設	800	800	800	800	800
うるま市勝連農村環境改善センター	0	0	0	0	0
うるま市与那城農村環境改善センター	0	0	0	0	68
うるま市農村婦人の家	0	0	0	0	0

■農水施設、自治公民館の年間管理運営経費の推移(平成19(2007)年度の年間管理運営経費を1.00とした場合)



平成23(2011)年度の利用者一人当たりの年間管理運営経費をみると、利用者が圧倒的に多いうるま市農民研修施設は80円/人、うるま市農家高齢者創作館は872円/人であり、2施設の格差は10.9倍となっています。なお、2施設の平均は189円/人です。

■平成23(2011)年度の農水施設、自治公民館利用者一人当たりの年間管理運営経費(円/人)



## II 集落排水処理施設、農水施設

### A. 施設概要

農業集落の生活環境の向上を図るため、集落排水処理施設1施設(勝連津堅地区農業集落排水処理場)を設置しています。また、漁民の知識高揚と技術向上による経営の安定化と、生鮮食料品等の取引の適正化とその生産及び流通の円滑化による漁民の福祉の増進、地域の発展に寄与する場として、石川荷捌施設・漁民研修施設を設置し、うるま市内漁業者の利用に供し漁業経営の安定に資するため、水産物鮮度保持施設を設置しています。

勝連津堅地区農業集落排水処理場には処理施設が設置され、敷地面積は1,286㎡です。石川荷捌施設・漁民研修施設には漁協荷捌き施設・研修施設が設置され、敷地面積は239㎡です。水産物鮮度保持施設には漁協製氷施設が設置され、敷地面積は4,362㎡です。

#### ■集落排水処理施設、農水施設の一覧

No	施設名	施設構成	主な業務内容	敷地面積
241	勝連津堅地区農業集落排水処理場	汚水処理施設	汚水処理場	1,286㎡
242	石川荷捌施設・漁民研修施設	漁協荷捌き施設・研修施設	市場でのセリ、漁民の会議等	239㎡
243	水産物鮮度保持施設	漁協製氷施設	漁船への氷補給	4,362㎡

#### ■集落排水処理施設、農水施設の位置図



## B. 建築物の状況

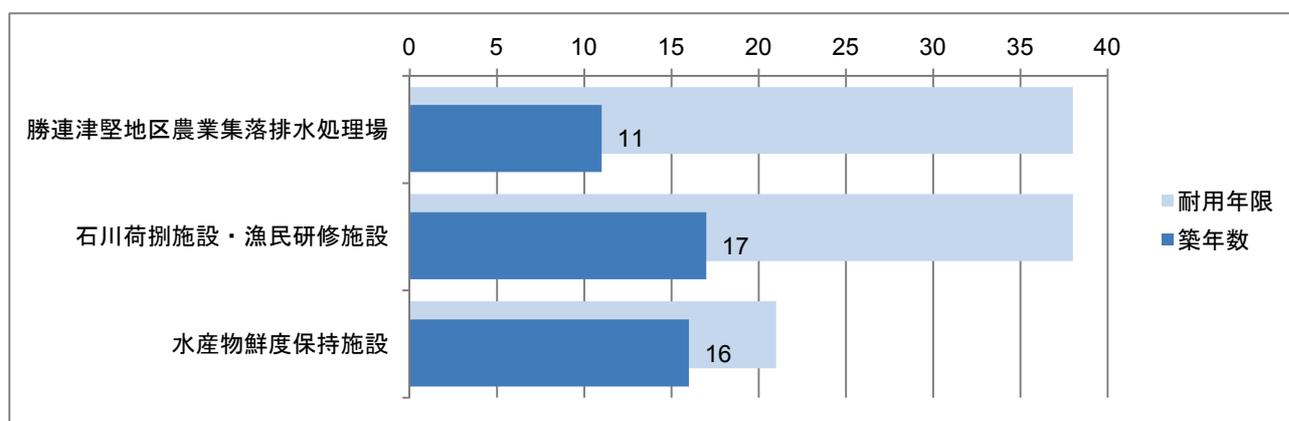
集落排水処理施設、農水施設のうち建築年が最も古いのは、平成8(1996)年に建築した石川荷捌施設・漁民研修施設であり、築後17年が経過し耐用年限38年まであと21年となっています。

集落排水処理施設、農水施設の3施設はいずれも鉄筋コンクリート造であり、堅牢かつ耐火性能に優れています。

### ■集落排水処理施設、農水施設の建築年・規模・構造・建築面積・延床面積

施設名	建築年	建物規模	建物の構造	建築面積	延床面積
勝連津堅地区農業集落排水処理場	平成14(2002)年	地上1階	鉄筋コンクリート造	231 m <sup>2</sup>	224 m <sup>2</sup>
石川荷捌施設・漁民研修施設	平成8(1996)年	地上2階	鉄筋コンクリート造	200 m <sup>2</sup>	400 m <sup>2</sup>
水産物鮮度保持施設	平成9(1997)年	地上4階	鉄筋コンクリート造	45 m <sup>2</sup>	127 m <sup>2</sup>

### ■集落排水処理施設、農水施設の築年数(年)



\*耐用年限は、財務省令『減価償却資産の耐用年数等に関する省令』を参考とし、排水処理場は工場用の建物のうちその他のもの、荷捌施設は魚市場用のもの(38年)、鮮度保持施設は冷蔵倉庫用のもの(21年)と見なしました。

集落排水処理施設、農水施設の3施設は、いずれも新耐震構造となっているため、特に耐震診断及び耐震補強の必要はありません。

バリアフリー化についてみると、いずれの施設も、市民が日常的に利用する施設でないこともあり対応していません。

集落排水処理施設、農水施設の3施設では、これまで外壁、屋根、設備等の大規模な改修工事は行われていません。

### ■集落排水処理施設、農水施設の耐震状況・バリアフリー状況

施設名	耐震診断の有無	耐震補強の有無	バリアフリー化(箇所)							視覚障害者誘導用ブロック
			出入口	廊下等	階段	エレベーター	トイレ	駐車場	アプローチ	
勝連津堅地区農業集落排水処理場	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石川荷捌施設・漁民研修施設	—	—	×	×	×	—	—	—	—	—
水産物鮮度保持施設	—	—	×	—	×	—	—	—	—	—

### C. 管理運営の状況

勝連津堅地区農業集落排水処理場は直営により農水産整備課が管理しており、一施設当たりの管理に関わる正規職員は1人です。

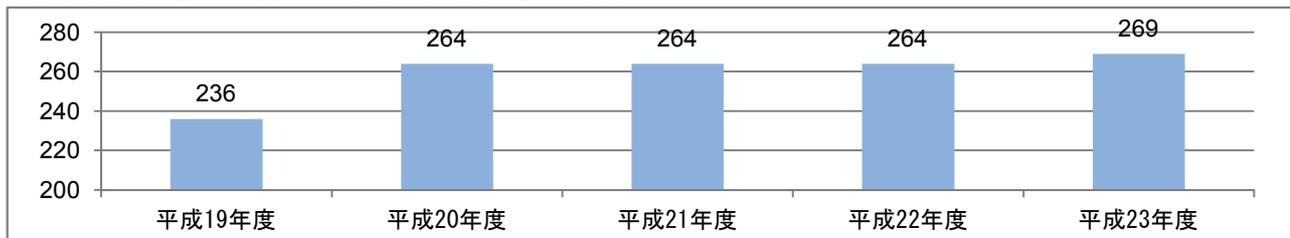
石川荷捌施設・漁民研修施設と水産物鮮度保持施設は指定管理者による管理運営が行われています。

#### ■集落排水処理施設、農水施設の管理形態等

施設名	担当部署	管理形態	正規職員数(人)	利用時間	休所(館)日	開館日数(日)
勝連津堅地区農業集落排水処理場	農水産整備課	直営	1	0:00~24:00	なし	365
石川荷捌施設・漁民研修施設	農水産整備課	指定管理者	0	9:00~22:00	なし	365
水産物鮮度保持施設	農水産整備課	指定管理者	0	10:00~19:00	毎月1日・新旧正月休・盆休	304

勝連津堅地区農業集落排水処理場の平成23(2011)年度の利用者数は269人です。

#### ■勝連津堅地区農業集落排水処理場の年間利用者数の推移(人)



勝連津堅地区農業集落排水処理場の年間管理運営経費をみると、平成22(2010)年度までは増加していましたが、平成23(2011)年度では若干減少しています。

#### ■集落排水処理施設、農水施設の年間管理運営経費の推移(千円)

施設名	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
勝連津堅地区農業集落排水処理場	13,214	13,429	14,117	15,492	14,528
石川荷捌施設・漁民研修施設	0	0	0	0	0
水産物鮮度保持施設	0	0	0	0	0

平成23(2011)年度の利用者一人当たりの年間管理運営経費は約54千円であり、過去5年間は55千円前後で推移しています。

#### ■勝連津堅地区農業集落排水処理場の年間管理運営経費の推移(平成19(2007)年度の年間管理運営経費を1.00とした場合)と利用者一人当たりの年間管理運営経費(円/人)の推移

